

鉄道ピクトリアル

2022年10月号増刊 Vol.72 No.10 通巻No.1004

<特集> 京阪電気鉄道

■表紙 3000系と8000系プレミアムカー……………焼田 健

寝屋川車両基地 2022-6-24

キャノンEOS5DsR TS-E24mm F3.5L II 絞り f11 タイム1/100 ISO100

■グラフ

113年目の京阪電車 (1~8・117~119ページ)

山中 茂・河原慶明・長谷川智紀・前元浩志・柴田康敬
松浦広明・山口大助・浜村正弘・岡田光紀・竹内宗隆
金子 聡・森田 宏・藪下健一・戸塚光弘・与野正樹
千田正哉・松村昌嘉・牧野 滋

地方私鉄で活躍する元京阪3000系……………眼目佳秀・岡田光紀…120

京阪電車 思い出の場面……………小林 武ほか…122

1980年3月の京阪電車沿線案内……………所蔵と解説：坂戸直和…124

京阪車両プロフィール&データファイル2022……………構成：焼田 健…217

*

高松吉太郎作品で偲ぶ昔日の京阪電車……………98

京阪1800系の記録……………写真：高橋 弘ほか…104

京阪電車 私の思い出……………早川昭文／花上義成…106

昭和の京阪 あの時代……………写真：田中景一ほか…110

京阪1982年の初詣輸送……………吉里 浩一…112

地上時代の三条駅……………下嶋 一浩…113

67年間の使命を終えた「女学生電車」……………清水 祥史…114

■本 文

今月の話題：京阪電気鉄道……………編集部…9

総説 京阪電気鉄道……………京阪電気鉄道株広報部…10

対談：京阪電気鉄道の鉄道事業を語る……………平川良浩・板谷和也…20

営業設備とサービス……………京阪電気鉄道株営業推進部…27

京阪線 輸送と運転……………京阪電気鉄道株営業推進部…32

駅、列車区のあらまし……………京阪電気鉄道株営業推進部…42

車両総説……………京阪電気鉄道株車両部…47

工場・車庫の概要……………京阪電気鉄道株車両部…58

信号保安・通信設備の概要……………京阪電気鉄道株電気部…67

運転指令所の業務と役割……………京阪電気鉄道株営業推進部…74

大津線の軌道事業……………京阪電気鉄道株大津営業部…80

線路と保線……………京阪電気鉄道株工務部…86

電力設備の概要……………京阪電気鉄道株電気部…90

京阪本線(寝屋川市・枚方市)連続立体交差事業の概要……………京阪電気鉄道株工務部…94

あれから12年—京阪開業100周年の頃……………藤原 進…125

京阪電気鉄道 大津線の駅舎バラエティ……………大沼 一英…133

京阪における高度成長期の通勤輸送事情……………三木 理史…144

樟急ヒストリー 1980~2022……………清水 祥史…150

沿線利用者から見た「京阪間ライバル達」……………中村 卓之…165

2600系ものがたり……………西野 信一…173

五感で楽しむ京阪電車~嗅覚にまつわる12題~……………清水 祥史…194

京阪をめぐる直通運転……………藤井 信夫…202

京阪電気鉄道1800系の技術史……………澤内 一晃…210

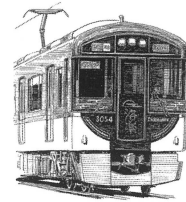
京阪電気鉄道 車両プロフィール2022……………福島 温也…223

〔京阪電気鉄道現有車両 主要諸元表、車歴表、編成表……………288〕

後部車から……………319

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット：松本一雄

京阪電気鉄道

京阪電気鉄道は大阪都心の淀屋橋と京都・三条を結ぶ49.3kmの京阪本線と鴨東線、中之島線(第二種鉄道事業)を中心に交野線、宇治線の支線、鋼索線、および京都府、滋賀県の琵琶湖周辺地域の天津線による計91.1kmの鉄・軌道を展開する大手民鉄である。開業は1910(明治43)年4月15日、大阪・天満橋と京都・五条間が最初で、1906(明治39)年の会社創立に際しては、「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一が創立委員長を務めたことで知られる。路線はその後、延長と合併により現在の天津線が加わり今日に至っている。京阪線の大阪・京都間は守口、枚方、樟葉といった淀川東岸地域が路線ルートであり、他社と競合となる京阪間輸送とともに沿線中核都市を結ぶ通勤・通学、行楽輸送に大きな役割を担っている。本誌では2009年8月増刊号(No822)以来の特集となる。

関西の大手民鉄は古くから独特の強い個性を有しており特徴となっているが、京阪も例外ではない。その一つが創業期から続く「進取の精神」であろう。古くは京阪間の特急運転をはじめ、自動信号機など運転保安設備のいち早い導入、戦後も特急運転サービスの進展、淀屋橋延伸、さらに鴨東線の建設など、「進取」に基づくまさに輸送サービスの安全安心、利便性向上の先取り感に溢れる施策を展開し成長を遂げてきた。現在においても、そうした方向性は健在であり、プレミアムカーの導入をはじめ、沿線の開発・整備など鉄道を中心とした多くの事業に見て取れる。時代の変化により少なくなった私鉄の遊園地「ひらかたパーク」は、創意工夫により今も直営で営業を続けている。微減傾向にあった輸送人員はインバウンド需要も加わり、近年増加傾向に転じた中でコロナ禍となり厳しい状況が続くが、こうした苦難を乗り越えて、引き続き事業の躍進を期待したいものである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan

今月の話題